

優秀賞

『知の体力』

永田和宏著、新潮社、2018.

吉岡 咲希（経営学部 経営学科 3年）

「質問をしないなら話を聞いている意味がない。」

この言葉は、私が大学生活において何度も自分自身に語りかけた言葉です。

本書は、細胞生物学者であり日本を代表する歌人でもある著者が、学びの本質について綴ったものです。また、著者は京都大学名誉教授であり、学生に向けて講義も行っています。実は、私は著者の講演を龍谷大学の授業で1回生の入学したてのときに受けたことがあります。

「質問をしないことは話を聞いていないということです。」と著者が述べたこの言葉は私の頭に強烈に残りました。授業ではたまにゲスト講師の講演があり、質疑応答の時間が設けられることがあります。しかし、静まり返る空気の中で誰も質問をしない瞬間があります。そんな時、この言葉が私に囁いてくるのです。「おい、私。なぜ黙っている？なぜ手を挙げて質問しない？話を聞いていなかったのか？」と。どうしようと思っている内に、質問の時間が終わってしまうこともあります。そんな時は、あとからあの言葉に責め続けられます。「ああ、お前は話を聞いていなかったんだな。質問すらもできないんだな。」と。

私は、手を挙げるようになりました。静かな空間で最初の質問者になるのは勇気がいりますが、毎回心臓がばくばくしながらもあの言葉に背中を押されながら質問しています。

あの講演を聞き、本書を読んでから2年以上が経ち、私は3回生になっています。「知の体力」をつけることができたのでしょうか。ただ受動的に授業を受けてきたような気もしますが、本書を読んでいなければ質問する学生にはなれなかったと思います。その部分だけは、私は確実に本書によって変わったと実感しています。あと1年、大学生活は残っています。

「知の体力」、つまり考え続ける力、答えのない問題にも問い続ける力をもっとつけていくことができるように、考えることをさぼらないようにしていきたいです。

私が入学した際に著者の話を聞いたこと、そして本書に出会えたことは非常に幸運であったと思います。学ぶことや学問に携わっている方々には、ぜひ一読いただきたい一冊です。この本は、確実にあなたの大学生活や学びの姿勢を変えることになるでしょう。